

# ジャンプ競技の概要



## 大倉山ジャンプ競技場の歴史

- 昭和 6年 10月に総工事費5万円余、「60m級シャンツェ」が完成。
- 昭和 7年 1月に開場式を行い、「大倉シャンツェ」と命名。
- 昭和27年 80m級に改修。
- 昭和45年 冬季オリンピック札幌大会に向け、90m級に大改修。「大倉山ジャンプ競技場」に名称変更。
- 昭和47年 冬季オリンピック札幌大会開催。
- 昭和57年 リフト(シングル)が建設される。
- 昭和61年 FISルールの改正に伴いランディングバーンとカンテを改修。K点 = 115m
- 平成 8年 FISルールの改正に基づきプロフィールが全面改修。K点 = 120m
- 平成 9年 ジャンプ台のサマーヒル化、ナイター照明完備。
- 平成10年 リフト(ペア)が整備される。

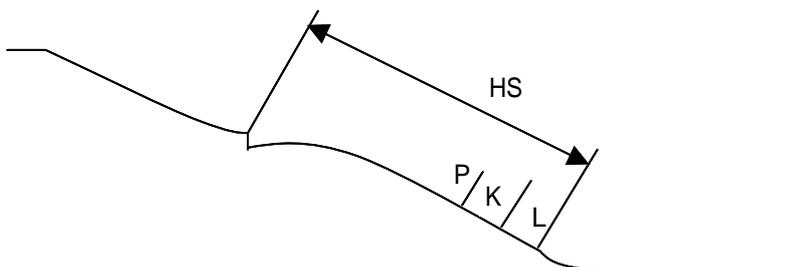
## 宮の森ジャンプ競技場の歴史

- 昭和45年 冬季オリンピック札幌大会に向け、「宮の森ジャンプ競技場」70m級が完成。
- 昭和47年 冬季オリンピック札幌大会開催。笠谷、金野、青地選手の活躍により金、銀、銅メダルを独占。
- 昭和58年 全面改修工事。サマーヒル化、リフトも建設される。K点=90m
- 平成 2年 改修工事が行われる。
- 平成17年 ノルディック世界選手権札幌大会に向け、ランディングバーン、アウトランの改修工事が行われる。

## ・ヒルサイズ(HS)について

2005年からジャンプ台の大きさを表す表記として用いられるようになりました。ヒルサイズ(HS)はテークオフの先端からL点(着地区域の終点)までの測定距離で決定されています。選手がこの距離を越える飛行をすると、危険のため競技の続行について審議(ジュリー会議)されます。K点と同じジャンプ台であってもジャンプ台の構造によりヒルサイズは異なります。

大倉山	K = 123m	HS 137m	宮の森	K = 90m	HS 100
白馬	K = 120m	HS 131	白馬	K = 90m	HS 98



## ・ジャンプ台のサイズ別分類

ジャンプ台の分類はテークオフの先端からL点(着地区域の終点)HSまでの測定距離で決定されています。

スモールヒル	20m ~ 49m
ミディアムヒル	50m ~ 84m
ノーマルヒル	85m ~ 109m
ラージヒル	110m 以上
フライングヒル	185m 以上

## ・大倉山・宮の森ジャンプ競技場のプロフィール

	大倉山	宮の森
助走路の長さ	94m	179.60m
助走路の最大斜度	35度	36度
テークオフの斜度	11.0度	10.5度
着地斜面の最大斜度	37度	36.5度
P点	100m	81.95m
K点	123m	90m
ヒルサイズ (HS)	137m	100m

## ・ジャンプ競技はこうして順位が決まります。

ジャンプ競技はいかに遠くに美しく飛ぶかが大事です。

飛距離点(飛んだ距離)と飛型点(飛んでいるスタイル)の合計点で順位を決めます。

### 1. 飛距離点はこうやって算出します。

飛距離点はそのジャンプ台のK点を基準に換算します。

K点まで飛ぶと60点が与えられ、K点を超すと1mにつき決められた点数が加算され、K点まで到達しないと1mにつき決められた点数が減点されます。

1mあたりの点数はジャンプ台のK点により定められています。

K点の距離	1mあたりの点数	K点の距離	1mあたりの点数
20 ~ 24m	4.8点	60 ~ 69m	2.4点
25 ~ 29m	4.4点	70 ~ 79m	2.2点
30 ~ 34m	4.0点	80 ~ 99m	2.0点
35 ~ 39m	3.6点	100m以上	1.8点
40 ~ 49m	3.2点	170m以上	1.2点
50 ~ 59m	2.8点		

### <例>

大倉山ジャンプ競技場 (K点 123m)

宮の森ジャンプ競技場 (K点 90m)

A選手の飛距離 128m  
 $60点 + (5m \times 1.8点) = 69点$

C選手の飛距離 95m  
 $60点 + (5m \times 2.0点) = 70点$

B選手の飛距離 118m  
 $60点 - (5m \times 1.8点) = 51点$

D選手の飛距離 85m  
 $60点 - (5m \times 2.0点) = 50点$

## 2. 飛型点はどうやって採点します。

飛型点は5人の飛型審判員によって採点されます。

審判員はテークオフ終了(カンテから飛びだしてから)からアウトランの転倒ラインを通過するまでの選手の継続した動作の外見を正確性、完成度、安定性及び全体の印象の観点から採点します。

審判員は一人の選手に対し、20点満点から減点法で採点します。

5人の審判員が採点した点数は、最高点と最低点を除き、3人の審判員の点数を合計して飛型点となります。

<例>

	A審判	B審判	C審判	D審判	E審判	
A選手	<del>19.0点</del>	18.5点	18.5点	18.0点	<del>17.5点</del>	18.5点 + 18.5点 + 18.0点 = 55.0点

	A審判	B審判	C審判	D審判	E審判	
B選手	17.0点	<del>17.5点</del>	<del>16.5点</del>	17.0点	17.5点	17.0点 + 17.0点 + 17.5点 = 51.5点

## 3. 順位はこのようにして決まります。

飛距離点と飛型点の合計が得点となります。通常、2回のジャンプを行い、1回目の得点と2回目の得点を合計して得点の高い選手から順位が決まります。